

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立伊万里商業高等学校・佐賀県立伊万里実業高等学校(定時制)
1 前年度 評価結果の概要	<p>○学校の教育方針や目標についての保護者・生徒に対する浸透が十分でなかったため、活発な広報に努める必要がある。</p> <p>○いじめの予防に重点をおき、アンケートや個別面談の頻度を多くしたことで、発生時の早期発見及び迅速な対応にもつながった。また、教育相談や特別支援の視点に立った個別の支援にもより努めたことで、不登校や中途退学等を大きく減らすことができた。</p> <p>○卒業生は進学、就職ともに全員が進路を決定することができた。また、通信制高校との併修による3年での卒業もあり、生徒の多様なニーズに対応することができた。今後は、4年間(ないし3年間)を見通した系統的な進路指導をより充実させる必要がある。</p>

2 学校教育目標	<p>【実業】心身ともに健康でたくましく、至誠と礼節を重んじ専門的知識・技術を生かし社会に貢献する人材を育成する。</p> <p>【商業】生徒一人ひとりの「生きる力・生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分に対応しうる、社会人・商業人としての資質(知識・技能)を身につけさせ、社会に貢献できる心身ともに健全な生徒の育成を目指す。</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>《～見る夢は叶わず 追う夢は叶う～》をスローガンとして、心身ともに健全な人材の育成に努めることにより、社会貢献ができる人間性豊かな生徒の育成を目指す。</p> <p>○集団生活の中で、相互に理解しあう心を醸成し、協調性を高める。</p> <p>○基礎学力の向上に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、進路実現100%を目指す。</p> <p>○新しいものを創造するとともに、来たるべき社会の構築に積極的に参画できる生徒を育成する。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の定着、及び商業の専門知識を高める。	○基礎学力テストで、50%以上正答した生徒が、全体の7割以上 ○各種検定資格試験の合格率90%以上	・学校行事を精選し、授業時数を確保する。 ・達成度を確認させ、個別指導に重点をおく。 ・専門教科ではチームティーチングによる個別指導をする。	B	・検定試験の実施は11月以降に実施予定であるが、授業での理解度は深まってきている。 ・基礎学力テストは前期4回実施して、50%以上正答した生徒は全体の65%であった。	A	・今年度現在まで実施した検定試験の合格率は65.6%であった。2月中旬にも実施予定。 ・基礎学力テストは後期4回実施して、50%以上正答した生徒は全体の73.9%であった。 ・生徒の授業評価の結果(4段階評価)は3.77であった。	B	・小テストによる学力向上には限りがあるのではないかと。 ・今年度の登校日減は少なからず学力に影響をおよぼしたのではないだろうか。加えて、年間の計画が乱されて学習指導も大変であったことだろう。	
	●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○講話を受けて「ためになった」と回答する生徒が80%以上	・人権講演会、情報モラル講演会の実施 ・授業等、あらゆる教育場面での道徳心の育成	A	・日々のHRや様々な講話を通じ、自分を大切にすること、他者を受け入れることの大切さを理解しつつある。 ・現在までの人権講話・防犯講話等での84%の生徒が「ためになった」と回答した。	A	・前期に比べ、日々の生活も落ち着きがでてきた。 ・後期は生徒間の問題も少なくなり、思いやりを持った行動ができるようになった。	A	・外部講師による講演等はオンライン導入を取り入れての方がよい。 ・生徒が将来に希望をもてる講演を多く取り入れた方がよい(「禁止事項」的な話が多くなっているのでは)。
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめの問題に関する点検項目」に対し、95%以上の職員が全て「おおむねできている」「できている」の回答	・「いじめアンケート」を隔月実施、「生活アンケート」を前後期各1回実施 ・生徒に関する情報交換・協議会を毎月実施	A	・いじめアンケートの実施により、いじめの認知・認知につながるケースがあり良かった。 ・「いじめの問題に関する点検項目」に対し、「おおむねできている」「できている」の回答が99%という結果であった。	A	・最終的に3件のいじめ認知であったが、うち2件がアンケートによるものであった。 ・いじめが重大化することなく、解消することができた。	A	・いじめは、どこからをそう判断するかが一番の課題であろう。 ・SNSによるいじめ防止には、当校はしっかりとした啓発・教育に取り組んでいると思う。
●健康・体づくり	○ふるさと佐賀を誇りに思い、夢や目標に向かって努力しようとする気持ちを育む教育の充実	○在学中、少なくとも1回は生活体験発表に挑戦することを勧める。	・自分の思いを、言葉や文字にすることで夢を実現するための勇気や見通しが持たせられるような機会を多く設定する。	B	・校内生活体験発表は全生徒が書きあげ、発表することができた。LHRの時間の時間を使い、生活体験発表に向け、自己の今まで、将来について考える時間をもった。	B	・個別に話をすれば自分の考えを述べることで、教室内では考えを持っていてもうまく言葉に表せない場面がみられる。	A	・A評価ができる取組ができていると思う。 ・引き続き、地道に取組を継続した方がよいと思う。	
	●健康・食生活の向上	●「健康に食事は大切である」と考える生徒85%以上 ○給食の喫食率85%以上	・喫食調査を毎日実施し、生徒の健康状態を併せて把握する。年間の喫食率が100%の生徒には「健康賞」を授与する。 ・食生活に関する定期的な面談を年2回以上実施 ・「給食だより」の毎月発行	B	・前期の面談は全員実施し、生徒の実態把握と朝食の大切さや望ましい食習慣など指導した。後期の面談は数名個別指導を行った。 ・給食時間に声をかけをし、食欲がない生徒にも一品でもいいから食べるように指導を行っている。喫食率100%の日もあり、4月から10月までの喫食率は平均86.5%であった。	B	・「健康に食事は大切である」と考える生徒は95%であり、前年度に比べて増加した。 ・1月までの喫食率は87.2%であった。 ・朝食毎日喫食率は33%で、4月よりも増加した。面談や給食時間、食育講話を通して、朝食の大切さや望ましい食習慣など食に関する指導を継続的に行っていきたい。	A	・食に関する講演会は効果が高いと思う。 ・自ら食事を作る教育の効果は高いと思う。 ・A評価ができる取組ができていると思う。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○健康管理能力の向上	○保健室の利用率(一人当たりの年間平均利用回数)7.0未満 ○う歯治療の処置完了者率20%以上	・出席状況や健康観察から問題を抱える生徒の早期把握と面談、職員連携 ・給食後の歯磨き指導を徹底し、学校歯科医と連携を図り、歯科保健講話を実施	B	・毎日健康観察を行い、生徒の心身の健康問題の早期発見に努めた。保健室状況率は4月から10月までは、5.1で、担任や関係職員と連携し対応した。 ・う歯治療の処置完了者は、歯科検診では13%だったが、治療勧告後は、21.7%となった。	B	・保健室状況率は4月から1月までは、6.7で、昨年度よりも利用率が減少した。今後も担任や関係職員と連携し対応していきたい。 ・う歯治療の処置完了者は21.7%となり20%を上回ることができた。3月まで個別指導を行い治療勧告をしていきたい。	A	・安全に関する教育目標も取り入れてみてはどうか。 ・A評価ができる取組ができていると思う。	
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎日の定時退勤推進 ・学校閉庁日の設定 ・職員の業務量チェック	A	・ほぼ毎日、勤務時間終了時刻から15分以内に全員が退勤できている。 ・時間外勤務時間は、昨年度同時期比較で39%減で、一人当たりの月平均は10時間以下である。	A	・中間評価同様、退勤時間が遅い職員はほとんどなく、持ち帰り業務も特出すべきものはなかった。 ・時間外勤務時間の後期昨年は20.4%減となっている。	A	・今後の会議等の縮減が業務効率化の指針となるであろう。 ・民間企業では、既にオンライン活用の会議が主流となっている。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○進路指導	○進路指導の充実と希望進路の実現	○卒業予定者の進路決定率を100%にする。	・1年次からの就労体験を通じ、社会性を身に付けさせ、進路意識を高める。 ・全日制進路指導部および、ハローワークと連携し、進路情報を収集して、生徒に提供する。	B	・前期における、長期短期のアルバイト経験者は23名中、19名であり、社会性を身に付ける経験ができた。 ・進路に関する情報を収集し、順調に準備をすすめることができた。	A	・年間における、長期短期のアルバイト経験者は23名中、19名で、職場での勤務態度は良好であると評価された。 ・卒業予定者の進路が100%決定した。	A	・アルバイトのために登校が遅れることがないよう配慮が必要である。ただ、アルバイトによる社会性の育成効果は高いと思う。 ・卒業生の進路決定が例年より早期であったのは、評価できることである。
	○授業改善による教員の資質向上	○生徒による授業評価2.8以上(4段階)	・年度中期に生徒による授業評価を行い、その後の改善に生かす。 ・授業において学習用PCによる理解度チェックを行う。 ・授業評価、アンケートの結果を基にした、職員による授業改善協議を実施する。	A	・生徒による授業評価では、「授業工夫」や「わかりやすさ」等、教師の技量に関する評価平均が3.8で、十分に達成することができた。 ・ただ、生徒自身の興味・関心に関しては3.3と相対的には低くなっているため、まだ授業改善の余地があると考え、来たるべき時に備え、オンライン授業のスキルを向上させる必要がある。	A	・授業評価のほとんどの項目で、評価が3.7以上あるため、引き続き目標値を達成することができた。ただ、前期と比較すると、2、1の評価の数が減っているため、一部の生徒への学習支援が必要と思われる。また、「興味関心」については3.5と最も低く、他の評価同様の水準まで上がることを今後の課題とすべきであろう。	A	・生徒による評価を授業改善に繋げる取組は、今後も継続した方がよいと思う。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・今年度はコロナ禍にあり、教育上新たな対応に戸惑った職員も多くいたと思われる。そのような中、研修等助け合い、教え合う職場の雰囲気が自ずと出てきたのは収穫と感じる。 ・進路指導においては、全日制のスケジュールを意識しながら、例年より早めの指導体制で臨んだことは今後の指針になる。 ・いじめ問題も3件発生したが、早期の発見と職員一致の体制で臨んだことで、悪化を招くことなく徐々に解決へと導くことができていく。この取組が継続されることが望まれる。</p>
----------------	---